



Cisco Spaces : IoT Explorer コンフィギュレーション ガイド

最終更新 : 2025 年 6 月 4 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 : シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間 : 平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED “AS IS” WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2022–2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに

ここでは、このマニュアルの対象読者、構成、および使用されている表記法について説明します。

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

- [はじめに](#) (iii ページ)

はじめに

ここでは、このマニュアルの対象読者、構成、および表記法について説明します。また、他のマニュアルの入手方法についても説明します。

対象読者

このマニュアルは、高精度な仮想ビーコンソリューションを実現するために Cisco ビーコンポイント (BP) または Cisco ビーコンポイントモジュール (BPM) を導入する Connected Mobile Experiences (CMX) ネットワークおよび IT の管理者を対象にしています。

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表 1: 表記法

表記法	説明
太字	コマンド、キーワード、およびユーザーが入力するテキストは 太字 で記載されます。
イタリック体	文書のタイトル、新規用語、強調する用語、およびユーザーが値を指定する関数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。

表記法	説明
{x y z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。文字列を引用符で囲まないでください。引用符で囲むと、文字列に引用符が含まれます。
courier フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

関連資料

詳細については、以下を参照してください。

- <https://support.dnaspaces.io/hc/en-us>

通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によって求めるビジネス成果を得るには、[Cisco Services](#) [英語] にアクセスしてください。

- サービスリクエストを送信するには、[Cisco Support](#) [英語] にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco DevNet](#) [英語] にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) [英語] にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

シスコのバグ検索ツール

[シスコのバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理する Cisco バグ追跡システムへのゲートウェイとして機能する、Web ベースのツールです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。



第 1 章

Cisco Spaces : IoT Explorer アプリ

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [機能 \(1 ページ\)](#)

概要

Cisco Spaces : IoT Explorer アプリにより、アセット、センサー、アラートシステム、および運用ワークフローのパフォーマンスの監視および最適化が可能になります。

機能

Cisco Spaces : IoT Explorer アプリは、アセット、Internet of Things (IoT) センサー、アラートシステム、運用ワークフローの管理、監視、最適化のための包括的な単一リソースです。

Cisco Spaces : IoT Explorer アプリは、Operational Insights および Cisco Asset Locator アプリケーションの第 3 世代の拡張バージョンです。IoT Explorer アプリケーションは、Cisco Spaces でデバイス主導の IoT ユースケースを検討しているユーザーに迅速な価値をもたらし、ACT ライセンスレベルで IoT サービスに価値を追加するように設計されています。

このアプリケーションは、以下に示す 3 つのユースケースを実現します。

- 温度監視：空間を監視し、温度変化の通知を受け取る
- アセットトラッキング：アラートを見つけて監視し、設定して、アセットのロケーションに関するインサイトを得る
- プレゼンス検出：物理的なスペースがどのように占有されているかをリアルタイムで把握する

これらの各ユースケース内で、ルール/アラートの作成、データログの表示、デバイスまたはセンサーのリアルタイムのロケーションとステータスの表示を行うことができます。IoT Explorer アプリケーションの UI は、ユースケースを簡単に設定できるように設計されています。



第 2 章

温度のモニタリング

- [使用例の概要 \(3 ページ\)](#)
- [デバイスの温度監視の構成 \(3 ページ\)](#)
- [温度履歴をグラフで表示 \(4 ページ\)](#)

使用例の概要

温度監視のユースケースを使用して、屋内環境を管理および監視します。また、スケーラブルで合理化されたオンボーディングプロセスを備えた新しい温度センサーを追加し、センサーが特定のしきい値を上回ったり下回ったりしたときにチームメンバーにすばやく通知するルールを作成することもできます。

このユースケースは、次のことに役立ちます。

- 温度が範囲外になったときにアラートを受け取る
- 時間の経過に伴う温度変化を監視するイベントログを設定する
- すべての空間の温度に関する洞察を得る
- アセットのコンプライアンスを維持する

このタイプのユースケースでは、次のセンサーがサポートされています。

- BLE タグ
- CCX タグ

デバイスの温度監視の構成

このタスクでは、スペースを監視し、デバイスの温度の変化に関する通知を受け取る方法を示します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Spaces で、**IoT Explorer** アプリタイルをクリックします。
- ステップ 2** [Temperature Monitoring] をクリックします。
- ステップ 3** [Get Started] をクリックします。
- ステップ 4** [Use Case Name] フィールドに、ユースケースの名前を入力します。
- ステップ 5** [Description] フィールドに、ユースケースの説明を入力します。
- ステップ 6** [Create Use Case] をクリックします。
温度監視のユースケースを、センサー、ルール、およびユーザーをセットアップするためのさまざまなオプションを使用して作成しました。
- ステップ 7** IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成した温度のユースケースを選択します。
- ステップ 8** デバイスで使用可能なセンサーをユースケースに追加します。センサーは個別に追加したり、一括で追加したり、Cisco Spaces にオンボードされたセンサーから追加したりできます。[Sensor \(15 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 9** このユースケースにアクセスできるユーザーを追加し、必要に応じてカスタムユーザーロールを追加します。[ユーザーとユーザーロールとは \(11 ページ\)](#) を参照してください
- ステップ 10** 次のいずれかが発生したときにチームにすばやく通知できる [Rules] を設定します。
- [Temperature Rise] : センサーを監視し、温度が上がるとイベントをトリガーします。
 - [Temperature Drop] : センサーを監視し、温度が下がるとイベントをトリガーします。
 - [Temperature in Range] : センサーを監視し、温度が設定可能な範囲内にある場合にイベントをトリガーします。
 - [Temperature outside Range] : センサーを監視し、温度が設定可能な範囲外にある場合にイベントをトリガーします。
 - [Sensor Not Heard] : センサーが指定された間隔の間、検知されなかった場合にイベントをトリガーします。
- ステップ 11** イベントをトリガーする条件を設定します。[ユースケースのルールを作成 \(12 ページ\)](#) を参照してください
-

設定した温度ルールによってイベントがトリガーされると、それらのルールを [Events] タブで確認できます。

温度履歴をグラフで表示

このタスクを使用すると、デバイスの温度変化をグラフィック表示で視覚的に確認できます。このグラフをカスタマイズすることもできます。

手順

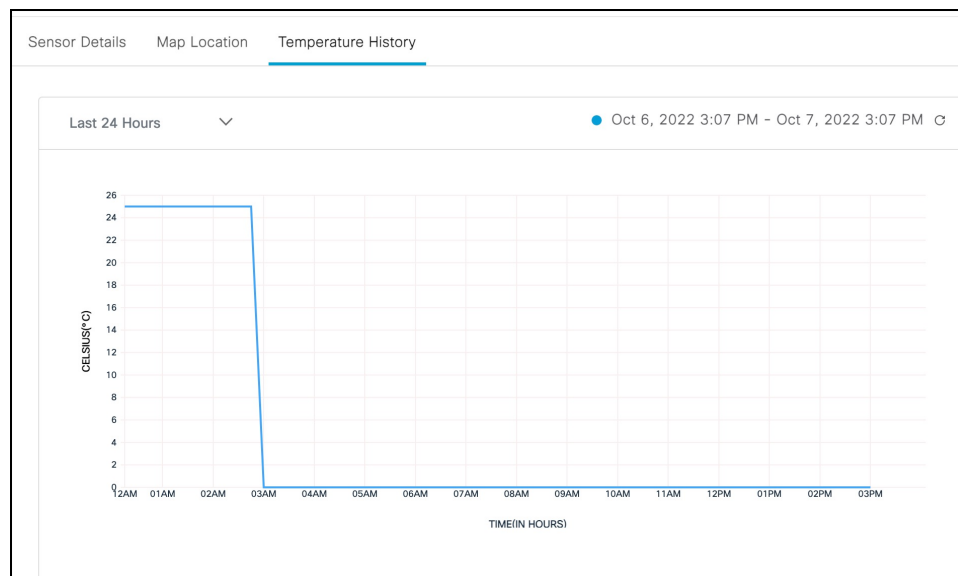
ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成した温度監視のユースケースを選択します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [Sensors] タブに移動します。
- [Configure] タブの [Manage Sensors] 領域で、[View Sensors] をクリックします。

ステップ 3 センサーをクリックして、デバイスで発生している温度変化を確認します。[Temperature History] タブでは、サポートされているセンサーによって、一定期間のデバイスの温度をグラフで表示できます。ここで、表示されている期間を変更することもできます。

図 1: 温度履歴をグラフで表示





第 3 章

アセットトラッキング

- [使用例の概要 \(7 ページ\)](#)
- [アセットロケーションのトラッキングとモニタリングの構成 \(8 ページ\)](#)

使用例の概要

アセットトラッキングのユースケースを使用して、アセットタグを追加して、重要なオブジェクトの場所を管理および監視し、マップ上のアセットを検索します。また、スケーラブルで合理化されたオンボーディングプロセスを備えた新しいアセットタグを追加し、アイテムが特定のゾーンを離れたときにチームメンバーにすばやく通知するルールを作成することもできます。Cisco Spaces : IoT Explorer アプリケーションは、アセットのロケーション履歴を 30 日間保持します。

このタイプのユースケースは、次のことに役立ちます。

- アセットがゾーン、フロア、または建物から離れた場合の通知を設定する
- リアルタイムでアセットを見つける。
- デバイスの使用頻度に関するインサイトを得る

このタイプのユースケースでは、次のセンサーがサポートされています。

- BLE タグ
- CCX タグ
- BLE デバイス
- Wi-Fi デバイス

アセットロケーションのトラッキングとモニタリングの構成

このタスクでは、アセットとそのロケーションに関するインサイトを提供するアラートを表示、監視、および設定する方法を示します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Spaces ウィンドウから、**IoT Explorer** アプリケーションタイルをクリックします。
 - ステップ 2 [Asset Tracking] をクリックします。
 - ステップ 3 [Get Started] をクリックします。
 - ステップ 4 [Use Case Name] フィールドに、ユースケースの名前を入力します。
 - ステップ 5 [Description] フィールドに、ユースケースの説明を入力します。
 - ステップ 6 [Create Use Case] をクリックします。
アセットトラッキングのユースケースを、アセットの管理、ルールの設定、ユーザーの追加を行うためのさまざまなオプションを使用して作成しました。
 - ステップ 7 IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したアセットトラッキングのユースケースを選択します。
 - ステップ 8 アセットで使用可能なアセットタグをこのユースケースに追加します。アセットは個別にインポートしたり、一括でインポートしたり、既存のユースケースからインポートしたりできます。各アセットの詳細を表示したり、マップ上でアセットを表示したりすることもできます。[Assets \(21 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ 9 このユースケースにアクセスできるユーザーを追加し、必要に応じてカスタムユーザーロールを追加します。[ユーザーとユーザーロールとは \(11 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ 10 次のいずれかが発生したときにチームにすばやく通知できる [Rules] を設定します。
 - [Asset Changes Location] : 建物、フロア、およびゾーン間でのアセットの移動を監視します。
 - [Asset Not Heard] : センサーが指定された間隔の間、検知されなかった場合にイベントをトリガーします。
 - ステップ 11 イベントをトリガーする条件を設定します。[ユースケースのルールを作成 \(12 ページ\)](#) を参照してください。
-

[Locator] タブのフロアマップに移動して、アセットを監視および管理できるようになりました。[Assets] タブから、名前またはロケーションを使用してアセットを検索することもできます。設定したルールによってイベントがトリガーされると、それらのルールを [Events] タブで確認できます。



第 4 章

プレゼンス検出

- [使用例の概要 \(9 ページ\)](#)
- [プレゼンス検出の構成 \(9 ページ\)](#)

使用例の概要

プレゼンス検出は、デスク、部屋、オフィスの占有状態のライブデータを管理および監視するのに使用できるタイプのユースケースです。また、スケーラブルで合理化されたオンボーディングプロセスを備えた新しい占有状態センサーを追加し、スペースが一定期間占有されたときにチームメンバーにすばやく通知するルールを作成することもできます。インポートしたマップにセンサーを手動で配置することもできます。

このユースケースは、次のことに役立ちます。

- データログルールを作成することにより、スペース使用率に関する洞察を得る
- マップを活用して、ライブのスペース占有状況をすばやく確認する
- 過去の占有データを施設チームメンバーと共有する
- スペースが空いたときに通知するルールを設定する

このタイプのユースケースでは、次のセンサーがサポートされています。

- パッシブ赤外線センサー (PIR)
- Meraki カメラ

プレゼンス検出の構成

このタスクでは、プレゼンス検出のユースケースを設定する方法を示します。この設定により、物理スペースのステータス（使用中など）をリアルタイムで把握できます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Spaces で、**IoT Explorer** アプリタイルをクリックします。
- ステップ 2** [Presence Detection] をクリックします。
- ステップ 3** [Get Started] をクリックします。
- ステップ 4** [Use Case Name] フィールドに、ユースケースの名前を入力します。
- ステップ 5** [Description] フィールドに、ユースケースの説明を入力します。
- ステップ 6** [Create Use Case] をクリックします。
プレゼンス検出のユースケースを、アセットの管理、ルールの設定、ユーザーの追加を行うためのさまざまなオプションを使用して作成しました。
- ステップ 7** IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成されたプレゼンスのユースケースを選択します。
- ステップ 8** このユースケースに人感センサー（物理的な場所で利用可能）を追加します。センサーは個別に追加したり、一括で追加したり、Cisco Spaces にオンボードされたセンサーから追加したりできます。[Sensor \(15 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 9** このユースケースにアクセスできるユーザーを追加し、必要に応じてカスタムユーザーロールを追加します。[ユーザーとユーザーロールとは \(11 ページ\)](#) を参照してください
- ステップ 10** 次のいずれかが発生したときにチームにすばやく通知できる [Rules] を設定します。
- [Presence Detected] : スペースを監視し、誰かがスペースを占有したときにイベントをトリガーします。
 - [Presence Not Detected] : スペースを監視し、スペースが解放されたときにイベントをトリガーします。
 - [Sensor Not Heard] : センサーが指定された間隔の間、検知されなかった場合にイベントをトリガーします。
- ステップ 11** イベントをトリガーする条件を設定します。[ユースケースのルールを作成 \(12 ページ\)](#) を参照してください
-

[Occupancy View] タブのフロアマップ画像から、占有スペースと非占有スペースを追跡できるようになりました。[Sensors] タブから、関連付けられているセンサーの名前またはロケーションを使用してスペースを検索することもできます。設定したルールによってイベントがトリガーされると、それらのルールを [Events] タブで確認できます。



付録 A

ルール

- [ユーザーとユーザーロールとは \(11 ページ\)](#)
- [ユースケースのビジネスルール、ポリシー、またはワークフロー \(12 ページ\)](#)

ユーザーとユーザーロールとは

Cisco Spaces : IoT Explorer ユーザーにはロールベース アクセス コントロール (RBAC) が提供され、ユーザーまたはユーザーグループにはさまざまなユーザーロールが提供されます。

ユーザーロールは、ユーザーに割り当てることができる制御と制限の集合です。

一部のユーザーロールおよび対応するユーザーは Cisco Spaces から継承され、デフォルトですべての IoT Explorer ユースケースに自動的に追加されます。

Cisco Spaces : IoT Explorer ユーザーロールは、さまざまな方法で定義できます。

ユーザーロールは、次の権限によって定義できます。

- **[Full Access]** : センサー、ルール、ユーザー、ユーザーロール、センサーテーブル、イベント、作業項目、通知の構成と表示を含む、ユースケースのすべての側面への管理アクセスをユーザーに許可します。
- **[Read Only]** : センサーテーブル、ルール、ユーザー、イベント、作業項目、通知などのユースケースの側面への読み取り専用アクセスをユーザーに許可します。
- **[Notifications Only]** : Cisco Spaces : IoT Explorer ルールエンジンによってユースケースイベントが生成されると、このユーザーは通知を受け取ります。

ロケーションを有効にするユーザーロールを設定することもできます。たとえば、フロアスタッフに、作業しているフロア上のアセットを表示および検索するためのアクセス権を付与できます。

ユースケースのビジネスルール、ポリシー、またはワークフロー

Cisco Spaces : IoT Explorer では、ワークフロー、ポリシー、ビジネスルールを定義できます。測定を監視する条件を設定し、いずれかの測定がこれらのルールによって確立された標準から逸脱すると、IoT Explorer ソリューションが開始します。即時アラートを受け取ることができます。また、必要に応じて、ワークフローやビジネスルールによって事前定義された自動アクションをトリガーすることもできます。

条件をチェックするさまざまなタイプのルールを設定し、条件が満たされると、SMS、電子メールの送信、イベントのログ記録などのアクションがトリガーされます。

ユースケースのルールを作成

このタスクでは、ユースケースにルールを追加する方法を示します。ルールでは、イベントをトリガーする条件を設定し、アセットやデバイスのステータスに関する重要なアラートを送信することができます。

手順

ステップ 1 IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

ステップ 2 新しく作成したユースケースのルールを設定します。次のいずれかを実行します。

- [Configure] に移動し、[Rules] 領域で [Add Rule] をクリックします。
- [Rules] タブに移動し、[Add Rule] をクリックします。

表示される [Add New Rule] ウィンドウは、このユースケースのデフォルトの [Rule] と [Event] で設定されています。各ユースケースには、1つのルールのみを含めることができます。ただし、他の条件を指定して、このルールをさらにカスタマイズすることは可能です。

ステップ 3 (任意) デフォルトのルールを変更するには、[Rules] タブから、新しいルールをデフォルトのルールの上にドラッグアンドドロップします。

新しいルールがデフォルトのルールになりました。

ステップ 4 (任意) ルールのスケジュールを設定するには、[Conditions] タブをクリックし、[Schedule] 領域から次のいずれかを設定します。

- [Duration] : このルールを適用できる開始日と終了日を指定します。
- [Day of the Week] : ルールを適用する曜日を指定します。
- [Time of the Day] : ルールを適用できる時刻を設定します。

ステップ 5 (任意) [Conditions] タブの [Location] 領域で、ルールに適用するロケーションをロケーション階層から選択できます。

- ステップ 6** (任意) [Conditions] タブの [Location Metadata] 領域で、ルールに適用するロケーション名を設定できます。
- ステップ 7** (任意) [Conditions] タブの [Asset Metadata] 領域で、ルールに適用する特定のアセット名を設定できます。
- ステップ 8** (任意) [Action] タブから、イベントを設定できます。ルール条件が満たされたときに、イベントがトリガーされます。デフォルトのアクションは、[Log the Event] です。ログに記録されたイベントは、ユースケースの [Events] に表示できます。ただし、次の操作を実行することもできます。

- [Send Email] : このユースケースにアクセスできるユーザーまたはユーザーロールに電子メールを送信するように設定します。メッセージを指定し、通知する必要があるユーザーとユーザーロールを選択できます。
- [Send SMS] : このユースケースにアクセスできるユーザーまたはユーザーロールに SMS を送信するように設定します。メッセージを指定し、通知する必要があるユーザーとユーザーロールを選択できます。
- [Cisco Webex] : このイベントが発生するたびに、指定したユーザーまたは Teams のスペースに Webex Teams でメッセージを送信するように設定します。Webex アカウントを設定し、通知メッセージを指定して、メッセージを伝達する Webex リンクを選択できます。
- [Log the Event] : イベントに名前と説明を付けて、デフォルトのログイベントを変更します。イベントの発生頻度が高すぎる場合は、一定期間に発生したデータポイントを集約し、単一のイベントとしてログに記録するように設定できます。

(注)

- [Only when the user is present] : アクションに対してロケーション認識を有効にすることで、ルールのカスタマイズを選択できます。ルールエンジンは、ユーザーがビジネスロケーションにいる場合のみ、電子メールと SMS を送信します。ユーザーとユーザーロールを設定するときに、ビジネスロケーションを設定できます。

ステップ 9 [Save and Publish] をクリックします。

ステップ 10 表示される [Rule Summary] ウィンドウで、このルールに行われた設定を確認できます。その後で、次のいずれかを実行できます。

- [Save Only] : このルールをドラフトとしてのみ保存します。ルール条件が満たされていても、設定されたアクションはトリガーされません。
- [Save and Publish] : ルールをアクションに導入します。ルール条件が満たされると、設定されたアクションがトリガーされます。



付録 **B**

センサー

- [Sensor](#) (15 ページ)

Sensor

Cisco Spaces : IoT Explorer は、アセットに接続されたセンサーからのデータを継続的に監視します。このデータには、電池残量、温度や湿度などのテレメトリデータが含まれます。いずれかの測定値が、ワークフロー、ポリシー、およびビジネスルールで確立された規範から逸脱すると、ソリューションはすぐに措置を実施します。即時アラートを受け取ることができます。また、必要に応じて、ワークフローやビジネスルールによって事前定義された自動アクションをトリガーすることもできます。

ユースケースを作成したら、複数の方法でユースケースにセンサーを含めることができます。

テンプレートファイルを使用したユースケースへのセンサーのインポート

このタスクでは、テンプレート（XLS）ファイルを使用してセンサーを一括でインポートする方法を示します。

手順

- ステップ 1** Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
- ステップ 2** [Configure] に移動し、[Manage Sensors] 領域で [Import Sensors] をクリックします。
- ステップ 3** 表示された [Add Sensors] ページで、[Bulk Import Sensors] を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Add Sensors - Import Via Spreadsheet] ページで、[Download Template Here] をクリックしてテンプレートファイルをダウンロードします。
- ステップ 5** テンプレートファイルに、インポートするすべてのセンサーの詳細を入力します。

ステップ 6 [Add Sensors - Import Via Spreadsheet] ページで、[Click here to browse or Drag a file to upload] をクリックします。編集したテンプレートファイルをアップロードします。[Import] をクリックします。

インポートされたセンサーは、このユースケースの [Sensor] タブで確認できます。

ロケーション階層とデバイスグループを使用したユースケースへのセンサーのインポート

このタスクでは、Cisco Spaces のロケーション階層からセンサーをインポートする方法を示します。Cisco Spaces : IoT サービス にすでにオンボードされているセンサーをインポートできます。デバイスグループの一部であるセンサーをインポートすることもできます。ただし、選択できるのはロケーション階層の範囲内にあるデバイスグループのみです。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

ステップ 2 [Configure] に移動し、[Manage Sensors] 領域で [Import Sensors] をクリックします。

ステップ 3 表示される [Add Sensors] ページで、[Setup Existing Sensor Filter Criteria] を選択します。サポートされているセンサーの数を確認できます。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 表示される [Add Sensors – Set Up Filter Criteria: Select Locations] ページで、ユースケースに含めるロケーションを選択できます。次のいずれかをクリックします。

- [Include all Locations] : 現在のすべてのロケーションをユースケースに含めることができます。今後階層に追加されるロケーションは自動的に追加されます。
- [Select Locations] : このユースケースに含めることができる特定のロケーションを選択できます。このオプションを選択すると、表示されたロケーション階層に移動し、特定のロケーションからユースケースにセンサーをインポートするように選択できます。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 表示される [Add Sensors - Set Up Filter Criteria: Select Device Groups] ページで、選択したロケーションから特定のデバイスグループのみをユースケースにインポートできます。次のいずれかをクリックします。

- [Include all Groups] : 今後階層に追加されるすべてのデバイスグループを自動的に含めることで、すべてのグループをユースケースに含めることができます。
- [Select Locations] : このユースケースに含めることができる特定のデバイスグループを選択できます。このオプションを選択すると、ユースケースのロケーションに適用可能なデバイスグループから選択して、それらのセンサーのみをユースケースにインポートできます。今後選択したデバイスグループに追加されたセンサーは、すべて自動的にユースケースに追加されます。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ9 [Add Sensors] をクリックします。

ロケーションとデバイスグループを指定して、センサーをユースケースにインポートしました。

ユースケースにセンサーを個別で追加

このタスクでは、センサーを1つずつ個別にユースケースに追加する方法を示します。Cisco Spaces : IoT サービス のロケーション階層にすでにオンボードされているセンサーを追加できます。

手順

- ステップ1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
- ステップ2 [Configure] に移動し、[Manage Sensors] 領域で [Add individual Sensor] をクリックします。
- ステップ3 表示された [Add Sensors] ページで、[TAG INFORMATION] 領域に移動し、リストされているタグタイプのいずれかを選択します。
- ステップ4 [Device MAC address] テキストフィールドに入力します。
- ステップ5 [Asset Name] テキストフィールドに、センサーの推奨名を入力します。
- ステップ6 [Save] をクリックします。
- ステップ7 (任意) ユースケースにさらにセンサーを追加するには、[Add Another Sensor] をクリックします。

ユースケースにセンサーを追加しました。

ユースケースに追加されたセンサーの表示

このタスクでは、ユースケースに追加されたセンサーのリストを表示する方法を示します。次のようなセンサーの詳細を表示することもできます。

- 電池残量の割合
- センサーの最終検知時刻
- フロアマップ上のセンサーの位置

手順

- ステップ1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
- ステップ2 次のいずれかを実行します。

- [Sensors] タブに移動します。
- [Configure] タブの [Manage Sensors] 領域で、[View Sensors] をクリックします。

[Sensors] タブでは、次の情報を表示できます。

- [All Sensors] : ユースケースに追加されたすべてのセンサーのリスト。
- [Heard Recently] : センサーが最後に検知された時点に応じたセンサーのリスト。最終検知時刻に応じてデバイスカテゴリを表示できます（過去 1 時間未検知、過去 24 時間未検知、最終検知（過去 1 時間内検知））。
- [Battery] : センサーの電池残量を表示します。電池残量に応じてデバイスカテゴリを表示できます（10% 未満、50% 超、90% 超）。

ステップ 3 センサーをクリックすると、センサーの詳細が表示されます。センサーが Cisco Spaces ロケーション階層の一部である場合、[Map Location] タブには、センサーが配置されているフロアマップが表示されます。

センサーリストのビューのカスタマイズ

ユースケースに合わせて、表示されるセンサーのリストのビューをカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [Sensors] タブに移動します。
- [Configure] タブの [Manage Sensors] 領域で、[View Sensors] をクリックします。

ステップ 3 センサーをクリックすると、センサーの詳細が表示されます。センサーが Cisco Spaces ロケーション階層の一部である場合、[Map Location] タブには、センサーが配置されているフロアマップが表示されます。

ステップ 4 列のタイトルの近くにある 3 つのドットをクリックして、次のいずれかを実行します。

- [Hide Columns] : 非表示になっている列は、表示される [Unhide Columns] ボタンで表示できます。
- [Pin Column] : 列を列の先頭に移動して固定します。
- [Sort Ascending] : この列のコンテンツの昇順に行を並べ替えます。
- [Sort Descending] : この列のコンテンツの降順に行を並べ替えます。

ステップ 5 [Sensor] タブのビューをカスタマイズしたら、表示される [Save as a new view] ボタンをクリックしてビューを保存できます。

ステップ 6 特定のパラメータでビューをフィルタリングすることもできます。

センサーへのカスタム属性の追加

センサーにカスタム属性を追加し、[Sensor] タブに新しく追加された列からその属性を監視できます。

手順

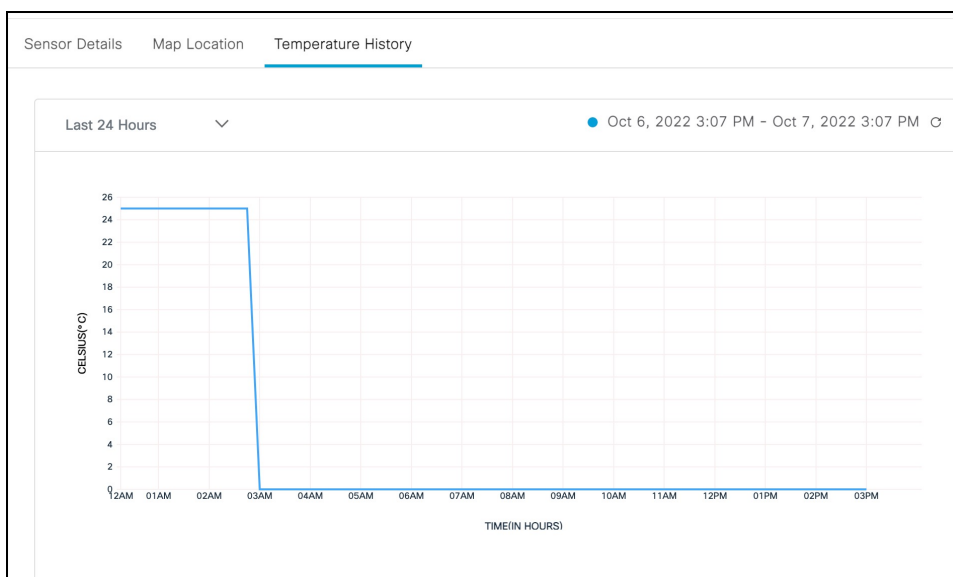
ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

ステップ 2 [Configure] タブの [Manage Sensors] 領域で、[Sensor Database] をクリックします。

ステップ 3 表示される [Sensor Database] ページで、[Add Column] をクリックします。次の手順を実行します。

- [Column] テキストフィールドに、カスタム属性の名前を入力します。
- [Data Type] を選択します。
- 属性の [Visibility] を選択します。
- 新しい行で [Save] をクリックします。
- [Save] をクリックして、[Sensor Database] ページを閉じます。

ステップ 4 次に、[Sensors] タブに移動します。新しく追加されたカスタム属性が列として表示されていることがわかります。





付録 C

Assets

- [Assets](#) (21 ページ)

Assets

Cisco Spaces : IoT Explorer は、アセットの位置など、アセットに付加されたタグからのデータを継続的に監視します。いずれかの測定値が、ワークフロー、ポリシー、およびビジネスルールで確立された規範から逸脱すると、ソリューションはすぐに措置を実施します。即時アラートを受け取ることができます。また、必要に応じて、ワークフローやビジネスルールによって事前定義された自動アクションをトリガーすることもできます。

ユースケースを作成したら、複数の方法でユースケースにアセットを含めることができます。

テンプレートファイルを使用したユースケースへのアセットのインポート

このタスクでは、テンプレート（XLS）ファイルを使用してアセットを一括でインポートする方法を示します。

手順

- ステップ 1** Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
- ステップ 2** [Configure] に移動し、[Manage Assets] 領域で [Import Assets] をクリックします。
- ステップ 3** 表示された [Add Assets] ページで、[Bulk Import Assets] を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Add Assets - Import Via Spreadsheet] ページで、[Download Template Here] をクリックしてテンプレートファイルをダウンロードします。
- ステップ 5** テンプレートファイルに、インポートするすべてのアセットの詳細を入力します。
- ステップ 6** [Add Assets - Import Via Spreadsheet] ページで、[Click here to browse or Drag a file to upload] をクリックします。編集したテンプレートファイルをアップロードします。[Import] をクリックします。

インポートされたアセットは、このユースケースの [Assets] タブで確認できます。

ロケーション階層を使用したユースケースへのアセットのインポート

このタスクでは、Cisco Spaces のロケーション階層からアセットをインポートする方法を示します。Cisco Spaces : IoT サービス にすでにオンボードされているアセットをインポートできます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

ステップ 2 [Configure] に移動し、[Manage Assets] 領域で [Import Assets] をクリックします。

ステップ 3 表示される [Add Assets] ページで、[Setup Existing Sensor Filter Criteria] を選択します。
サポートされているアセットの数を確認できます。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 表示される [Add Assets - Set Up Filter Criteria: Select Locations] ページで、ユースケースに含めるロケーションを選択できます。次のいずれかをクリックします。

- [Include all Locations] : 今後階層に追加されるすべてのロケーションを自動的に含めることで、現在のすべてのロケーションをユースケースに含めることができます。
- [Select Locations] : このユースケースに含めることができる特定のロケーションを選択できます。このオプションを選択すると、表示されたロケーション階層に移動し、特定のロケーションからユースケースにアセットをインポートするように選択できます。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 表示される [Add Assets - Set Up Filter Criteria: Select Device Groups] ページで、選択したロケーションから特定のデバイスグループのみをユースケースにインポートできます。次のいずれかをクリックします。

- [Include all Groups] : 今後階層に追加されるすべてのデバイスグループを自動的に含めることで、すべてのグループをユースケースに含めることができます。
- [Select Locations] : このユースケースに含めることができる特定のデバイスグループを選択できます。このオプションを選択すると、ユースケースのロケーションに適用可能なデバイスグループから選択して、それらのアセットのみをユースケースにインポートできます。今後選択したデバイスグループに追加されたアセットは、すべて自動的にユースケースにインポートされます。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [Add Assets] をクリックします。

ユースケースにインポートされているアセットの数が表示されます。

ユースケースにアセットを個別で追加

このタスクでは、アセットを1つずつ個別にユースケースに追加する方法を示します。Cisco Spaces : IoT サービス のロケーション階層にすでにオンボードされているアセットを追加できます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
 - ステップ 2 [Configure] に移動し、[Manage Assets] 領域で [Add individual Asset] をクリックします。
 - ステップ 3 表示された [Add Assets] ページで、[TAG INFORMATION] 領域に移動し、リストされているタグタイプのいずれかを選択します。
 - ステップ 4 [Device MAC address] テキストフィールドに入力します。
 - ステップ 5 [Asset Name] テキストフィールドに、アセットの推奨名を入力します。
 - ステップ 6 [Save] をクリックします。
 - ステップ 7 (任意) ユースケースにさらにアセットを追加するには、[Add Another Asset] をクリックします。
-

アセットがユースケースに追加されます。

ユースケースに追加されたアセットの表示

このタスクでは、ユースケースに追加されたアセットのリストを表示する方法を示します。次のようなアセットの詳細を表示することもできます。

- 電池残量の割合
- アセットの最終検知時刻
- フロアマップ上のアセットの位置

手順

-
- ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
 - ステップ 2 次のいずれかを実行します。
 - [Assets] タブに移動します。
 - [Configure] タブの [Manage Assets] 領域で、[View Assets] をクリックします。
- [Assets] タブでは、次の情報を表示できます。
- [All Assets] : ユースケースに追加されたすべてのアセットのリスト。

- [Heard Recently] : アセットが最後に検知された時点に応じたアセットのリスト。最終検知時刻に応じてアセットカテゴリを表示できます（過去 1 時間未検知、過去 24 時間未検知、最終検知（過去 1 時間内検知））。
- [Battery] : アセットの電池残量を表示します。電池残量に応じてアセットカテゴリを表示できます（10% 未満、50% 超、90% 超）。

ステップ 3 アセットをクリックして、アセットの詳細を表示します。アセットが Cisco Spaces ロケーション階層の一部である場合、[Map Location] タブには、アセットが配置されているフロアマップが表示されます。

アセットリストのビューのカスタマイズ

ユースケースに合わせて、表示されるアセットのリストのビューをカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [Assets] タブに移動します。
- [Configure] タブの [Manage Assets] 領域で、[View Assets] をクリックします。

ステップ 3 アセットをクリックして、アセットの詳細を表示します。アセットが Cisco Spaces ロケーション階層の一部である場合、[Map Location] タブには、アセットが配置されているフロアマップが表示されます。

ステップ 4 列のタイトルの近くにある 3 つのドットをクリックして、次のいずれかを実行します。

- [Hide Columns] : 非表示になっている列は、表示される [Unhide Columns] ボタンで表示できます。
- [Pin Column] : 列を列の先頭に移動して固定します。
- [Sort Ascending] : この列のコンテンツの昇順に行を並べ替えます。
- [Sort Descending] : この列のコンテンツの降順に行を並べ替えます。

ステップ 5 [Asset] タブのビューをカスタマイズしたら、表示される [Save as a new view] ボタンをクリックしてビューを保存できます。

ステップ 6 特定のパラメータでビューをフィルタリングすることもできます。



付録 D

ユーザーとユーザーロール

- [ユーザーとユーザーロールとは \(25 ページ\)](#)

ユーザーとユーザーロールとは

Cisco Spaces : IoT Explorer ユーザーにはロールベース アクセス コントロール (RBAC) が提供され、ユーザーまたはユーザーグループにはさまざまなユーザーロールが提供されます。

ユーザーロールは、ユーザーに割り当てることができる制御と制限の集合です。

一部のユーザーロールおよび対応するユーザーは Cisco Spaces から継承され、デフォルトですべての IoT Explorer ユースケースに自動的に追加されます。

Cisco Spaces : IoT Explorer ユーザーロールは、さまざまな方法で定義できます。

ユーザーロールは、次の権限によって定義できます。

- [Full Access] : センサー、ルール、ユーザー、ユーザーロール、センサーテーブル、イベント、作業項目、通知の構成と表示を含む、ユースケースのすべての側面への管理アクセスをユーザーに許可します。

[Read Only] : センサーテーブル、ルール、ユーザー、イベント、作業項目、通知などのユースケースの側面への読み取り専用アクセスをユーザーに許可します。

[Notifications Only] : Cisco Spaces : IoT Explorer ルールエンジンによってユースケースイベントが生成されると、このユーザーは通知を受け取ります。

ロケーションを有効にするユーザーロールを設定することもできます。たとえば、フロアスタッフに、作業しているフロア上のアセットを表示および検索するためのアクセス権を付与できます。

ユースケースへのユーザーの追加

このタスクでは、個々のユーザーにユースケースへのアクセス権を付与できます。

手順

ステップ 1 Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- [Users and Roles] > [Users] に移動し、[Add Users] をクリックします。
- [Configure] に移動し、[Users] 領域で [Add User] をクリックします。

ステップ 3 ユーザーの電子メールアドレスを入力して、[Look Up] をクリックします。

電子メールアドレスが有効で、データベースで見つからない場合は、[Basic Details] 領域が表示されます。

ステップ 4 [Basic Details] 領域で、次の手順を実行します。

- a) ユーザーの名前と電話番号を入力します。
 - b) ユーザーに割り当てるロールを選択します。（画像 10）
 - c) ユーザーにロケーション対応ロールを割り当てると、ユーザーにロケーションを割り当てることができます。
 - d) ロールがロケーション対応でない場合でも、[Detect User Presence] を選択して、MAC アドレスまたはユーザー名を指定できます。これは、ユーザーのロケーションに基づいてアラートをユーザーに送信するために使用されます。
 - e) [Save] をクリックします。
- すべてのフィールドが正確に追加されている場合、ユーザーの詳細が保存されます。

ステップ 5 [Add Another User] ボタンを使用して、このユースケースに別のユーザーを追加できます。

ステップ 6 [Done] をクリックして、ユーザーを追加します。

ユースケースへのユーザーの一括インポートまたはエクスポート

ユーザーを一括でインポートすることもできます。[Users and Roles] > [Import Users] > [Import a list of Users] に移動します。提供されているテンプレートをダウンロードし、詳細を入力します。

[Export Users] を使用して、ユースケース用に定義されたユーザーをエクスポートすることもできます。生成された Microsoft Excel スプレッドシートを使用して、他のユースケースにユーザーをインポートできます。

既存のユースケースからユーザーをインポート

このタスクでは、既存のユースケースからユーザーをインポートする方法を示します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
- ステップ 2** [Users and Roles] > [Users] に移動し、[Import Users] をクリックし、[Import Users from Another Use Case] をクリックしてから、[Next] をクリックします。
- ステップ 3** 表示される [Import Users to this Use Case] ウィンドウで、ユーザーをインポートする元のユースケースを選択します。
- ステップ 4** 表示されるウィンドウには、選択したユースケース（ユースケース A）のユーザーロールを新しいユースケース（ユースケース B）のユーザーロールにマッピングできるテーブルが表示されます。このテーブルを使用して、最初のユースケースからユーザーをインポートし、選択したユーザーロールにそれらを割り当てることができます。次の手順を実行します。
- 最初の列から、ユースケース A のユーザーロールを選択します。
 - 同じ行の 2 番目の列から、ユーザーをマッピングするユースケース B のユーザーロールを選択します。
 - 同じ行の 3 番目の列で、インポートされ、この新しいユーザーロールに割り当てられるユーザーの数を確認できます。
 - ユースケース A の任意のユーザーロールからのユーザーのインポートをスキップするには、4 番目の列で、対応する [Don't import these rows] オプションを選択します。
 - [Next] をクリックします。
-

新しいユースケースの [Users & Roles] タブに、新しく追加されたロールとユーザーが表示されます。

ユースケースのカスタムロールの作成

自分のユースケースにのみ適用できるカスタムロールを作成できます。

この機能を使用すると、別のユースケースから自分のユースケースにユーザーをインポートできます。このようなシナリオでは、2 つのユースケースのロールをマッピングし、ユーザーをカスタムロールにインポートできます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Spaces : IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成したユースケースを選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかを実行します。
- [Users and Roles] > [Roles] に移動し、[Add Role] をクリックします。
 - [Users and Roles] > [Configure] に移動し、[Users] 領域で [Add Role] をクリックします。
- ステップ 3** 表示された [Add New Role] で、次の手順を実行します。
- a) [Enter the Role Name] フィールドと [Enter a description for this Role] フィールドに入力します。

b) このロールのアクセスタイプを選択します。

- [Full Access] : センサー、ルール、ユーザー、ユーザーロール、センサーテーブル、イベント、作業項目、通知の構成と表示を含む、ユースケースのすべての側面への管理アクセスをユーザーに許可します。

[Read Only] : センサーテーブル、ルール、ユーザー、イベント、作業項目、通知などのユースケースの側面への読み取り専用アクセスをユーザーに許可します。

[Notifications Only] : Cisco Spaces : IoT Explorer ルールエンジンによってユースケースイベントが生成されると、このユーザーは通知を受け取ります。

- [Custom] : アクセスレベルを組み合わせて、さまざまな機能に対応させることができます。

ステップ 4 (任意) [This is a Location-Enabled Role] オプションをオンにして、このロールに割り当てられたユーザーにロケーションを割り当てることを選択します。

このオプションを選択すると、ロケーション固有のイベント通知をより柔軟に設定することもできます。このロールのユーザーは、現在地に基づいて通知を受け取ることができます。

(注)

前のステップで [Custom] を選択した場合、それぞれの IoT Explorer ダッシュボードでユーザーに表示される内容も設定できるようになりました。割り当てられたロケーションに関するデータの表示をユーザーに許可できます。

ステップ 5 [Add] をクリックします。

ロケーション対応のルールの設定

メールやSMSなどのロケーション依存の通知イベントをトリガーするルールを作成できます。ユーザーとユーザーロールにロケーションを割り当てることができます。これにより、イベント発生時にユーザーが、割り当てられたロケーションにいる場合にのみ、ユーザーにイベントが通知されるようにルールを設定できます。

1. ロケーション対応のユーザーロールを作成します。
2. ユーザーをロケーション対応のユーザーロールに割り当てます。
3. これらの各ユーザーに特定のロケーションを割り当てます。
4. ロケーション対応のイベントを含むルールを作成し、これらのロケーション対応のユーザーまたはユーザーロールにのみ通知します。

手順

- ステップ 1** IoT Explorer : [Active Use Cases] から、ロケーション対応のルールを必要とするユースケースを選択します。
- ステップ 2** 新しいロケーション対応のロールを追加するか、既存のロールを編集できます。[Users and Roles]>[Roles] に移動し、次のいずれかを実行します。
- 既存のロールを編集するには、ロールの後ろにある 3 つのドットをクリックしてロール固有のメニューを開き、[Edit Role] をクリックします。
 - 新しいロールを追加するには、[Add Role] をクリックします。
- ステップ 3** 開いたページで、[Access Type] を選択し、[This is a Location Enabled Role] オプションをオンにします。このユーザーロールにユーザーを追加して、それらのユーザーにロケーションを割り当てることができます。ルールエンジンは、これらの割り当てられたロケーションに基づいて通知を送信します。さらに、前のステップで [Custom] アクセスタイプを選択した場合は、ユーザーに割り当てられたロケーションに基づいて特別な権限を割り当てることができます。
- ステップ 4** このロケーション対応のロールに新しいユーザーを追加できます。[Users and Roles]>[Users] に移動し、[Add Users] をクリックします。
- ステップ 5** ユーザーの電子メールアドレスを入力して、[Look Up] をクリックします。電子メールアドレスが有効で、データベースで見つからない場合は、[Basic Details] 領域が表示されます。
- ステップ 6** [Basic Details] 領域で、次の手順を実行します。
- a) ユーザーの名前と電話番号を入力します。
 - b) ユーザーに割り当てるロールを選択します。
 - c) ユーザーにロケーション対応ルールを割り当てると、ユーザーにロケーションを割り当てることができます。
 - d) [Save] をクリックします。
すべてのフィールドが正確に追加されている場合、ユーザーの詳細が保存されます。
- ステップ 7** [Add Another User] ボタンを使用して、別のユーザーを追加できます。
- ステップ 8** [Done] をクリックして、ユーザーを追加します。
- ステップ 9** 次に、このユースケースのロケーション対応ルールを設定します。[Rules] タブに移動し、[Add Rule] をクリックします。
- ステップ 10** 必須: ロケーション階層から特定のロケーションに対してこのルールを設定するには、[Conditions] タブをクリックし、[Location] 領域でロケーション階層からロケーションを選択します。
- ステップ 11** 必須: ロケーションに基づいて通知を送信するように設定するには、[Events] をクリックします。ただし、次のことができます。
- [Send Email] : このユースケースへのアクセス権が付与されているユーザーまたはユーザーロールに電子メールを送信するように設定します。メッセージを指定し、通知する必要があるユーザーとユーザーロールを選択できます。

- [Send SMS] : このユースケースへのアクセス権が付与されているユーザーまたはユーザーロールに SMS を送信するように設定します。メッセージを指定し、通知する必要があるユーザーとユーザーロールを選択できます。

(注)

[Only when the user is present] : アクションに対してロケーション認識を有効にすることで、これらのアクションをさらにカスタマイズできます。電子メールと SMS は、ユーザーがビジネスロケーションにいる場合にのみ送信されます。ユーザーとユーザーロールを設定するときに、このビジネスロケーションを設定できます。

- a) [Action] タブをクリックします。
 - b) [Send Email] または [Send SMS] オプションをルールにドラッグします。
 - c) メッセージおよびその他の詳細を指定します。
 - d) 設定されたロケーション対応ユーザーロールまたはロケーション対応ユーザーを選択します。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。